



**#小平教授、「日展特選」受賞**  
平成五年十一月二日から二十四日まで、東京・上野の都美術館で開催された第二十五回日展の彫刻部門で、学校教育学部の小平胖可（こだいら・ゆたか）教授が、裸婦立像「路ゆく想（みちゆくおもい）」で二回目の特選を受賞した。来し方二十年を振り返り、行く末を見通しつつ制作した変動的な作品。

**#平成五年度の化学教育有功賞受賞候補者に内定―松井附属高校副校長**  
今年度停年退官が予定されている附属高校副校長松井坦（まつい・ひろし）氏に対して、社団法人日本化学会から同賞受賞内定の通知があった。長年の理科教育の業績が高く評価されたもの。同氏の受賞記念講演は、三月二十九日から開かれる日本化学会第67春季年會で行われる予定。

**#医学部の西カッコさん、業務功勞者で文部大臣表彰**  
医学部管理課、環境整備係の西カッコさんが、平成五年度の文部省の医学教育等業務功勞者賞を受賞し、表彰式が昨年の十一月十五日に行われた。この賞は、ふだん陽のあたらない部署で功勞のあった職員に与えられるもの。

**#知られざる国際駅伝大会**  
留学生との交流を目的に、第六回国際駅伝大会が、一月二十二日（出）、西条キャンパスで開催された。

留学生七チームのほか、東広島市内の中学生、高校生など四十五チーム、二百七十選手が参加。  
大会の世話をした工学部の学生古井さんは、「残念ながら、フェニックス駅伝などに比べかなり知名度が低い。今後この大会を受け継ぐ後輩たちがさらに盛り上げてくれるでしょう」と、来年の参加を呼びかけていた。

**#仕事始め式行われる**  
一月四日午前十時から、本部第一会議室において、本学教職員約二百二十名が参集して仕事始め式が行われ、学長から新年に当たっての挨拶があった。

原田学長は、最大懸案事項である統合移転が平成七年三月に完了予定となっていることに伴い、今後の重点は、大学院整備・充実などに移るとともに、全日本、全世界に通用する広島大学となるよう衆知を集めて努力したいと抱負を語った。

**#通信ネットワークによる国際シンポジウムの開催**  
国際シンポジウム「大学における教育と研究―二十一世紀に向けての新展開―」の第一日目の模様は、本学ほか全国の七大学で通信衛星を用いたネットワークにより放映された。本学では、一月十日に工学部視聴覚教室で延べ約二十人が視聴した。

**#文学部、移転始まる**  
二月四日、西条移転の第六番目として文学部の移転が始まった。

**#第二食堂閉店―さびれゆく東千田キャンパス**  
十二月二十五日、皆実分校以来四十年近く営業を続けてきた第二食堂が閉店した。

三月には、第一食堂も現在建築中の西第一福利会館に移転することが決まっており、いよいよ移転も最終局面を迎えつつある。第二食堂の経営に当たってきた手島氏は、「四十年の永きにわたり、多くのかたがたに愛顧いただいたことに、心から感謝いたします」と語っていた。

**#学生証の有効期限、入学から卒業予定年までに延長**  
二月八日の評議会で、現在有効期間が二年間の学生や大学院生などの身分証明証が、四月から標準在学期間までに延長されることと決められた。医学部医学科、歯学部では六年、法・経済学部二年は五年、その他は四年が標準となる。現在の磁気テープのついた運転免許証型の身分証明証は耐用年限が長く、一般教育課程の廃止により、二年という年限を切る必要がなくなったこと、事務の簡素化をはかるなどが延長のおもな理由。

有効期間延長により、紛失する機会も増加するので、学生が再発行を求めることのないよう注意することが求められる。



第6回国際駅伝大会ゴール付近で



文学部長らによるテープカット

出発式は、教職員約百人が見守るなか、午前十時から文学部玄関前で開かれた。湯浅文学部長や学長代理の戸田総合科学部長の挨拶のあと、テープカット。最初の荷を積んだトラック三台が西条キャンパスに向けて出発した。

**#移転関係の建物建築すむ**  
三月までに西条キャンパスに完成予定の建物は、保健管理センター、課外活動共用施設（体育系クラブハウス・弓道場・相撲部土俵・自動車部車庫など）、国際交流会



多くの学生の食を満たした食堂内

**#体育会の入会率六六％に上昇**  
新入生への体育会の入会案内は、これまで体育会が独自に行っていたが、今年度から学部の書類と一緒に配布したところ、従来の入会率三四％から六六％へと急激に上昇したことがこのほど明らかになった。

学生部では来年度も引続き、各学部の協力を呼びかけている。

なお霞キャンパスでは、西条キャンパスが地理的に離れているため、西条での授業は一年間で集中的に履修し、二年目からは霞キャンパスで全部の授業を実施する方針である。

**#通則の改正に伴い、編入学や転学部に関する規程を改正**  
大綱化に伴い広大でも旧一般教養を総合科学部が担当するという規定などが、相次いで改正されている。また進学課程をもっていた医学部医学科、歯学部ではこれが廃止される。他方では社会人の入学や大学内での転学の自由を広げるなどの必要性が生じている。こうした状況に対応するため、二月八日に開かれた評議会で「広島大学通則」と「編入学規程」が改正され四月一日から施行されることが決まった。

②転学部の手続きが簡略化される。現在は、学生の所属学部と総合科学部のチューターとの協議、志望学部の教官との協議などが必要。新しい通則と細則では志望学部の学科等に欠員のある場合、学生は所属学部長に申請し、所属学部と志望学部の教授会が承認し、学長が許可すれば認められるなど、従来より著しく簡略化された。

**#広島市内の学寮閉鎖が正式に決まる**  
一月二十五日の臨時評議会で、広島市にある三つの学寮、青雲寮、山中寮、薫風寮が移転終了とともに閉鎖されることが正式に決まった。

このうち出汐二丁目にある薫風寮は、大正二年建造の老朽建物で、中国財務局からの借用（平成七年三月末までの契約）であり、借用期間満了をもって閉鎖されることになった。定員五十三人で、現在十八人の学生が居住している。

千田町にある青雲寮と女子寮の山中寮は、広大所有の土地・建物だが、「移転費用は跡地の時価売却により充てる」という、移転決定時の協議了解事項があり、平成八年

三月末に閉鎖される。青雲寮は定員二百三十人で、現在七十人が、山中寮は定員四十八人で、三十七人の学生が住んでいる。学生部ではこれまでも学寮委員会（西村清巳委員長、教育学部）や学寮専門委員会（林忠行委員長、法学部）を中心に、各寮の代表者との話し合いや寮生を対象として説明会を行ってきた。評議会での方針の決定後も、一月三十一日に学生部長出席の説明会を開いたが、青雲寮生に納得が得られず、流会になった。

**#平成六年度の広大受験生の志願状況、前期日程七％、後期日程二〇％減少**  
来年度入学のための広大受験生の学部学科別の志願状況が、このほど学生部によりまとめられ、二月八日の評議会で、三好学生部長により報告された。それによると前期の志願者総数は募集人員二千二百六十六人に對して二・九倍の六百七十一人で昨年より約七％の減少。後期日程は五百五十一人に對して志願者は六・八倍の一千六百六十九人で、昨年に比べ二〇％も減少している。

**#新部局長の選出すむ、八部局長が交代**  
三月末で任期満了や停年退官のため、新しい部局長の選考が進んでいるが、ほとんどの部局で選考を終了し、新しい部局長の予定者が決まった。部局長の交代があるのは次の八部局である。

現役の受験生は六九・五％と昨年より三％減少し、広島県内からの受験生は前期で二八・四％と減少傾向を示している。  
倍率が平均の三倍を上回るのは、前期では、文学部、教育の心理学科、社会科教育、家政教育、学教の数学、技術、理学部の物性学科、生物生産学部（移転対象学部）のみとなっている。これに對して、広島市内に残る学部では、医学部、歯学部、法学部二部、経済学部二部ともに三倍を上回っており、とくに法学部二部は六・二倍と全学で最高の倍率になっている。

すべり止めの志願者の多い後期試験でも、総合薬学科の四・二倍を例外として、広島市内のキャンパスの学部では、すべて七倍を上回っているのが注目される。

学生部では、今後入試委員会を中心に、受験生の減少の理由を分析して行く予定である。

**#理学部松浦教授が学長補佐に**  
一月十一日の評議会で、理学部の松浦博厚教授（物質化学）を学部長教育担当の学長補佐に指名することが、学長から報告された。松浦教授は理学部の教務委員会委員長として、理学部一貫カリキュラムを整備し、他学部にさがけて平成五年度からの実施

を実現し、本年度は全学の教務委員会委員長を務めている。学長補佐はこれで、戸田吉信教授（総合科学部、大学院整備充実担当、牟田泰三教授（理学部、自己点検・評価担当）の三人となった。

医学部川崎 尚学部長から調枝寛治教授（病院長、眼科）へ（停年退官）。  
医学部附属病院院長調枝寛治教授から土肥雪彦教授（第二外科）へ（任期満了）。  
歯学部部長二階宏昌学部長から杉中秀壽教授（口腔細菌学）へ（任期満了）。  
歯学部附属病院院長川崎 未定。  
工学部佐々木和夫学部長から茂里一紘教授（船舶計画学）へ（停年退官）。